

# 小売電気事業者による環境負荷の情報開示の あり方について②

第66回 制度設計専門会合  
事務局提出資料

令和3年10月22日（金）



電力・ガス取引監視等委員会  
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

## 本日はご議論いただきたいこと

- 第60回（4 / 27）の本会合では、放射性廃棄物等の情報の開示を小売GL上で望ましい行為と位置付けることについてご議論いただいたところ。
- 「消費者が望む情報をファクトベースで議論すべき」や「まずは消費者のニーズを捉えるため、定点観測を行っていけばいいのではないか」といった旨のご意見をいただいた。
- 今回は、以前の会合を踏まえて事務局で行った消費者の意識調査の結果をご報告するとともに、今後の方向性についてご議論いただきたい。

# (参考) 消費者団体による放射性廃棄物の情報開示を求める意見



第4回 再生可能エネルギー等  
規制等総点検タスクフォース  
(令和3年2月3日)  
資料5-1より抜粋

## 1. 電源構成表示の義務化を希望

- ・自由市場のもとで消費者が財・サービスを選ぶ際に、  
選択の手掛かりとなる情報をわかりやすく提示することは、市場健全化の前提条件
- ・2050年カーボンニュートラルに向け、消費者が  
再エネに積極的に取り組む企業とそうでない企業を消費者が見極め、  
選択していくことは、大切な消費行動
- ・「環境への負担を少なくしたい」という消費者ニーズに応える環境整備が重要
- ・「電力の小売営業に関する指針」において電源表示は「望ましい行為」→義務化を
- ・火力発電については、ガス・石炭・石油を分けた表示を
- ・CO<sub>2</sub>排出量や放射性廃棄物量についても表示を

## (参考) 第60回制度設計専門会合(4/27)における主な御意見

(村上委員)

- 放射性廃棄物の排出ができるだけ小さい電気を買いたいと考える消費者は少なからず存在しており、そのような消費者がきちんと電気を選ぶように、この表示は必要と考えています。

(岩船委員)

- やはり**本当の消費者の声**というのをどう反映するかということは考えていかななくてはいけないかなと思います。  
(略) 監視委が主体となって一般の人向けにアンケートを取って、定点観測をしていけばいいのではないかと思います。

(安藤委員)

- 費用面とか効果を把握することなく対応するというのは不適切だと思っています。これがもし通ってしまうのだったら、極論すれば、少しでも消費者または消費者団体が要求したら、全ての環境情報について同様の扱いをすることにつながりますが、それに恐らく賛成する人はいないのではないかと感じています。

(松村委員)

- 自分たちが関心を持っていることで、これを開示してほしいということを要求するのはいいとは思いますが、その後蓋を開けてみたら、開示しようが開示しまいが消費者の選択にほとんど影響を与えなかった、あるいは、この値が高かろうと低かろうとほとんど影響を与えなかったということになったとすれば、これを要求した人の、その要求の信憑性、消費者は関心を持っているという議論の信憑性が疑われることになり、今後その団体の意見が受け入れられにくくなるということは十分考えた上で、それでも**本当に自分たちだけではなくて消費者がこれに強く関心を持っているのか**、ということをも十分考えた上で、要求が出てくることを望んでおります。

(稲垣座長)

- 正確な情報、正確に伝えるにはどうするかという問題と、消費者が望む情報とは何なのかということで、その辺をやはり詰めていくということになるかと思っています。(略) 事務局としては検討していただいて、これもファクトベースできちんと検討していただくようお願いいたします。

# 消費者の意識調査の実施

- 前回の専門会合において、一般消費者のニーズを調査する必要性やファクトベースで検討すべきと指摘されたことを踏まえ、「電気の選択にあたり意識すること」や「現在、小売電気事業者が（小売GLにおいて）求められている説明の分量について、どのように考えているか」などの実態調査を行うべく、消費者アンケート調査を実施。
- 調査の母集団は、「総務省統計局人口推計」における都道府県ごとの人口・年代・性別構成に沿って設定。

## ＜実施した消費者アンケートの概要＞

調査対象 : 全国20歳以上の一般男女約1万人  
※都道府県ごとの人口・年代・性別構成は、全国の人口分布に沿って設定。

調査時期 : 令和3年7月5日～7月15日  
※調査対象者からの回答が集まり次第、調査を終了。

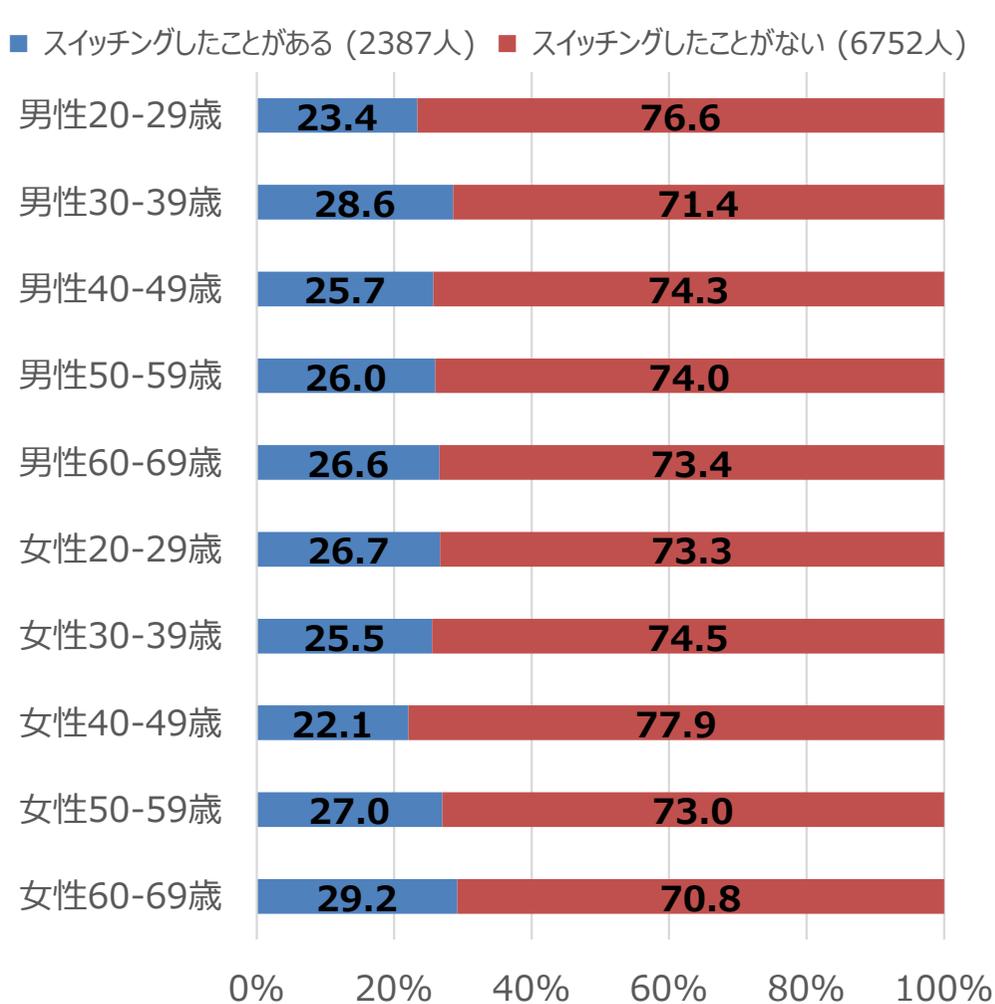
調査手法 : インターネットによる調査  
※選択肢の表示順序は、恣意性を回避するため、ランダム表示設定。  
※設問一覧は22・23ページ参照。

有効回答数 : 9139人  
－ スイッチング経験あり 2387人（約26.1%）  
－ スイッチング経験なし 6752人（約73.9%）

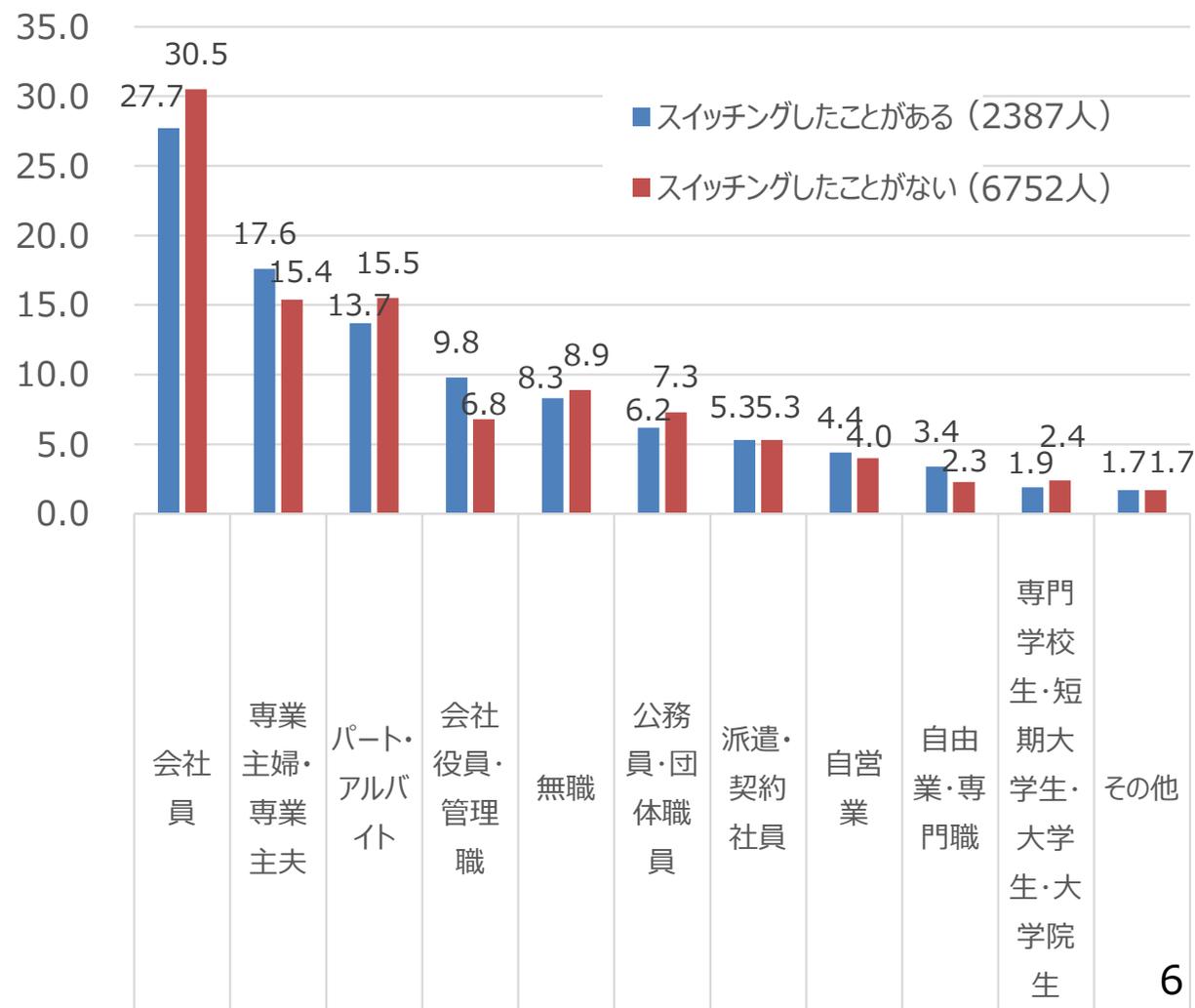
# (参考) スイッチング経験の有無

- 今回の調査においては、回答者の約26.1%がスイッチング経験あり。
- 全国のスイッチング率は18.8%（次頁参考）であり、それに比して、今回の消費者調査ではスイッチングへの関心が高い層からの回答をやや多く反映していると考えられる。

## 【性年代別回答状況】



## 【職業別回答状況】

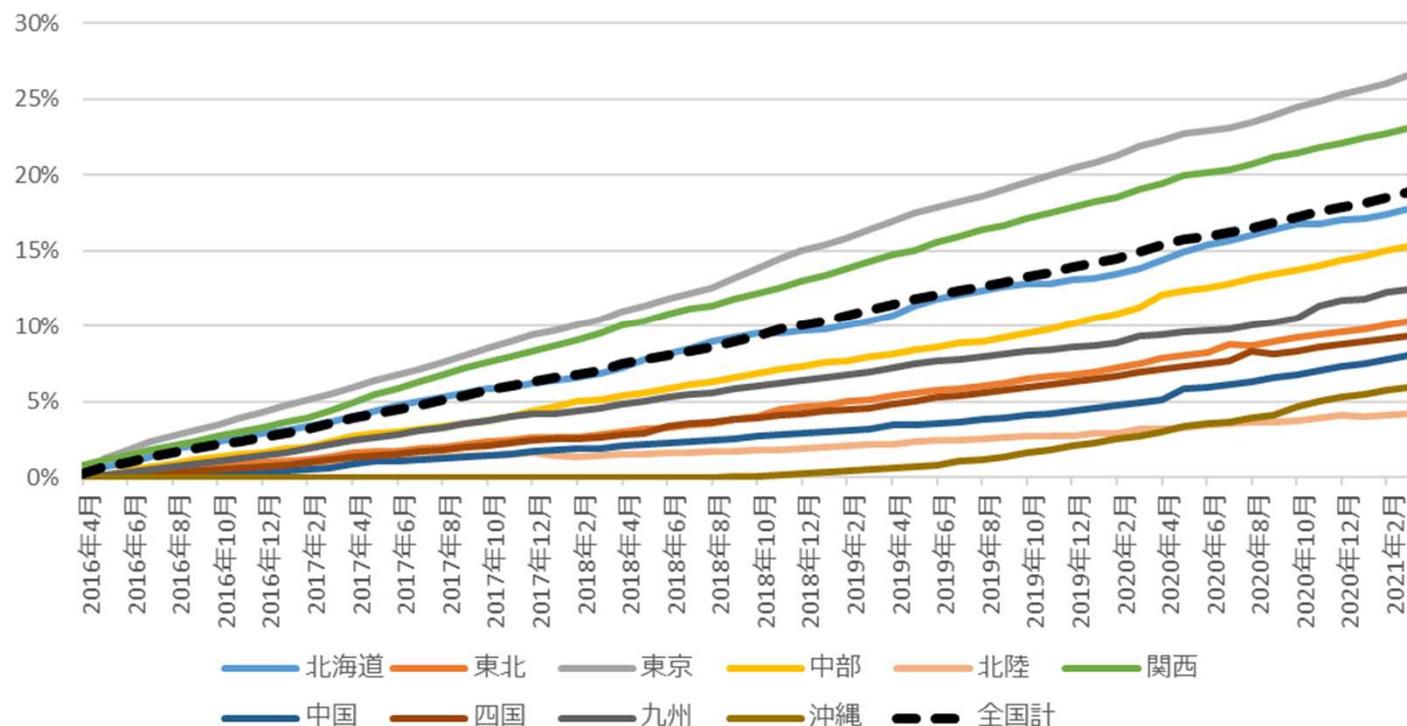


# (参考) 低圧部門でのスイッチング割合

第62回 制度設計専門会合（令和3年6月29日）資料10  
（令和3年1月～3月期 自主的取組・競争状態のモニタリング報告）より抜粋

- 各エリアの旧一般電気事業者から新電力等（域外に供給している旧一般電気事業者を含む）へのスイッチングは、エリア毎にばらつきはあるものの総じて見れば継続的に上昇しており、2021年3月時点で全国18.8%となっている。

各エリアの旧一般電気事業者からスイッチングした割合

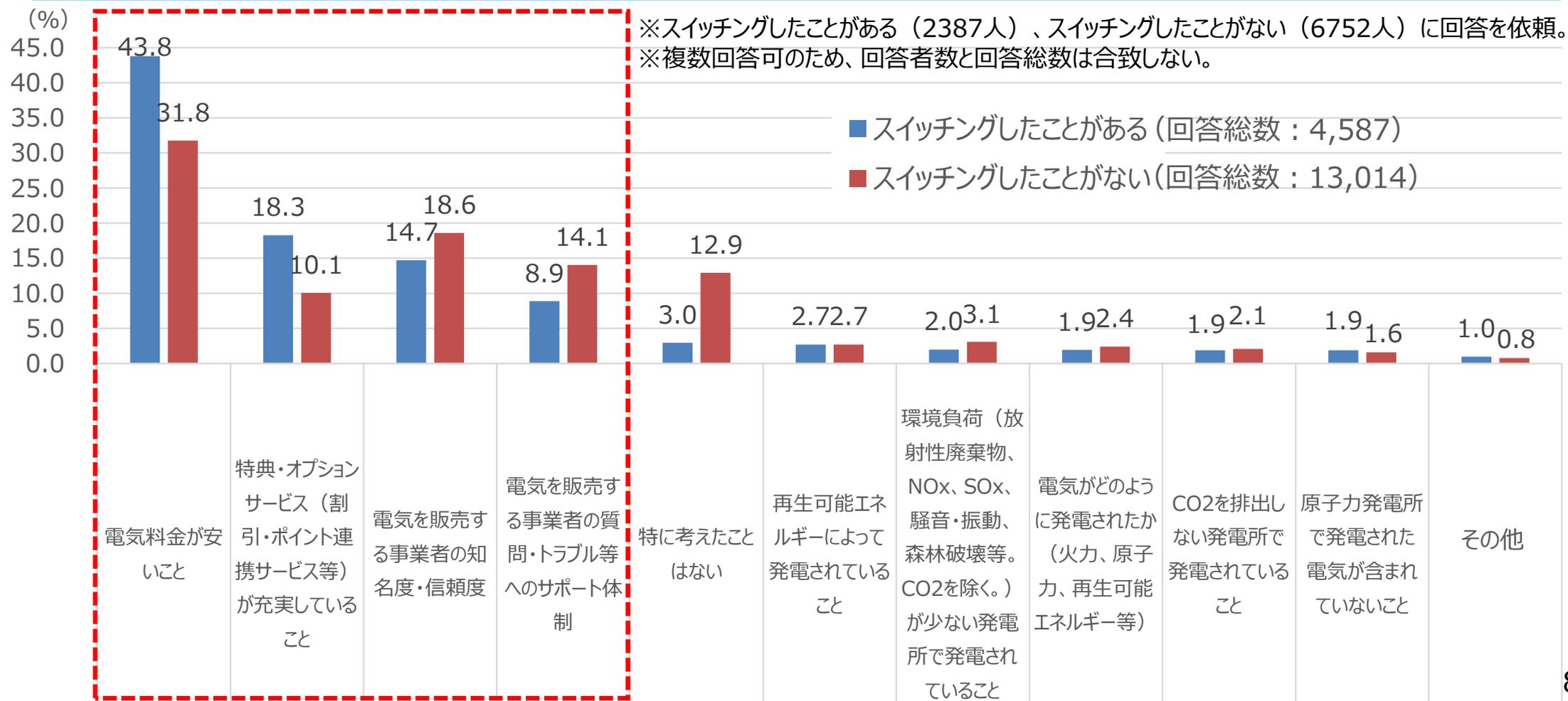


	2021年3月
北海道	17.7%
東北	10.3%
東京	26.5%
中部	15.3%
北陸	4.2%
関西	23.1%
中国	8.1%
四国	9.4%
九州	12.4%
沖縄	6.0%
全国	18.8%

(出所) 電力取引報  
(備考) 低圧：契約口数ベース

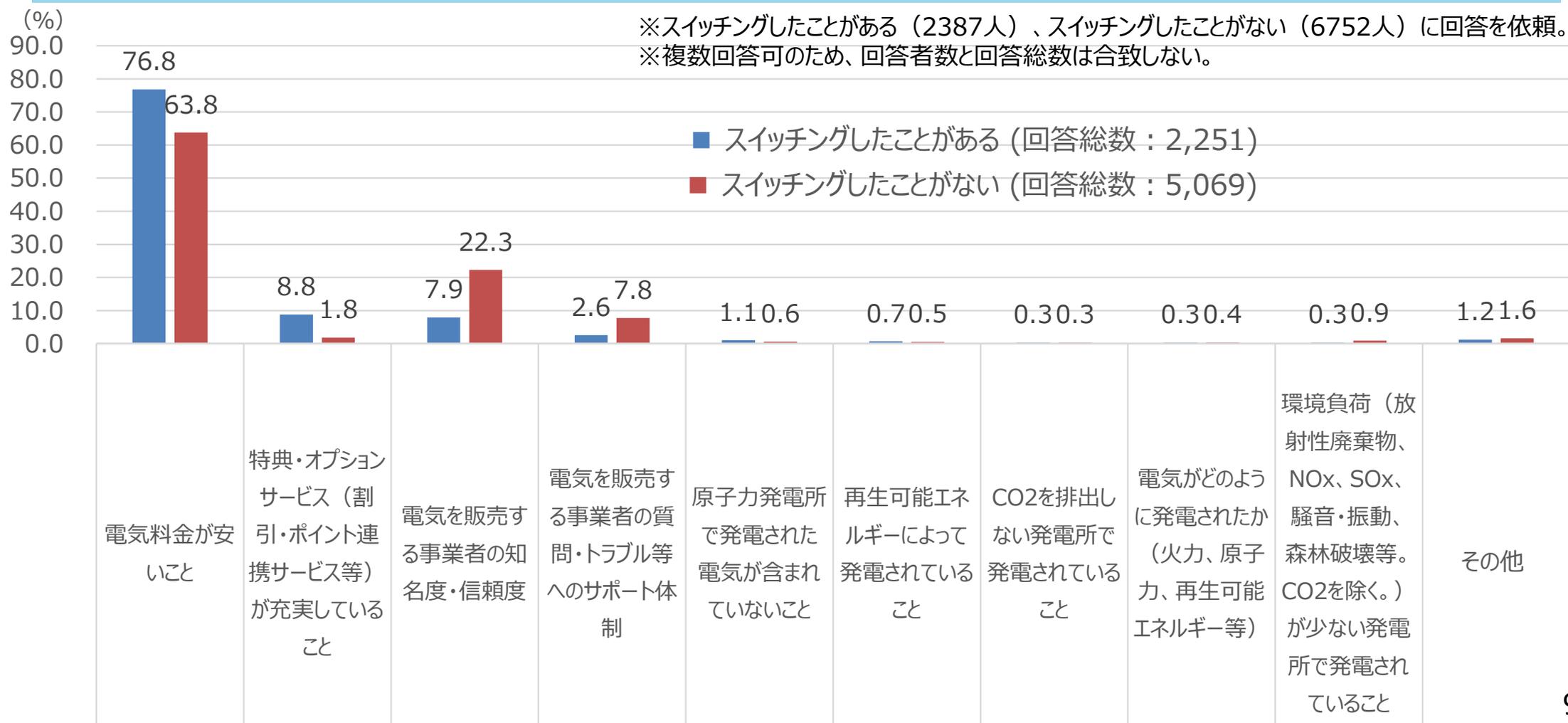
# 消費者の意識調査での回答状況①

- 消費者に対し、「電気の選択に際して重視している（又は重視したい）こと」を調査（複数回答可）。
  - 電気料金の安さ、特典(割引・ポイント等)、事業者の知名度・信頼度やサポート体制の4項目への回答が、スイッチング経験にかかわらず上位となっており、家計や暮らしへの結びつきが強い事項への関心が高い傾向。これに比して、環境負荷を含むその他の項目への回答は1～3%。
- ※回答総数ではなく回答者数を母数にした結果は17ページ参照。



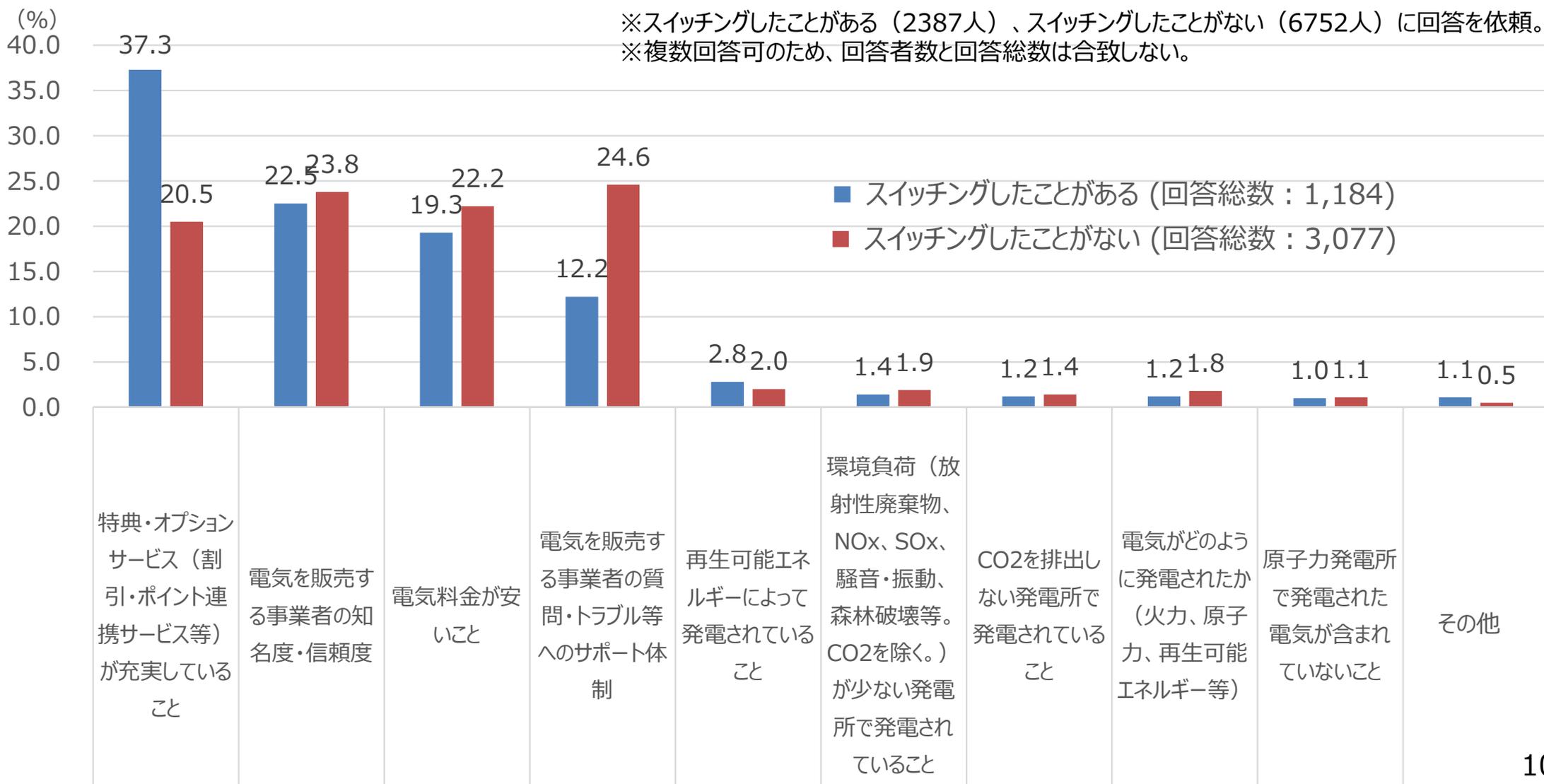
# (参考) 消費者の意識調査での回答状況① - 1

- 「電気の選択に際して重視している（又は重視したい）こと」の中で、重視している事項を3つに絞るケースの質問も実施している（以降参照）。
- 電気の選択に際して「1番目に」重視している（又は重視したい）ことに限定すると、「電気料金が安いこと」を「最も重視すること」に選んだ回答が大半を占めており、環境負荷を含むその他の項目への回答は約1%未満。



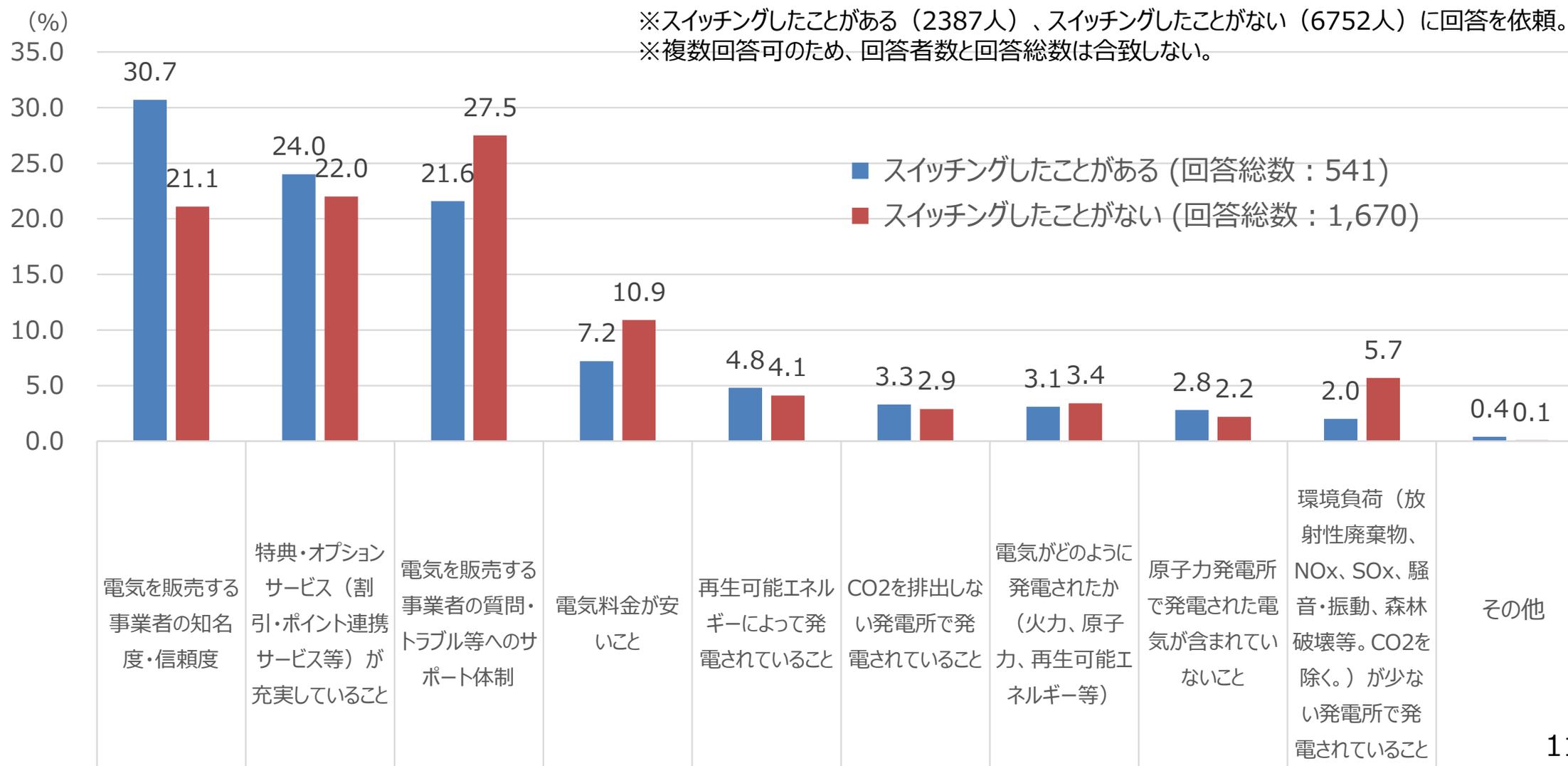
# (参考) 消費者の意識調査での回答状況①-2

- 電気の選択に際して「2番目に」重視している（又は重視したい）ことに限定しても、1番目と同様、家計や暮らしへの結びつきが強い、特典（割引・ポイント等）、事業者の知名度・信頼度、料金の安さやサポート体制の4項目に回答が集中しており、環境負荷を含むその他の項目への回答は約1～3%。



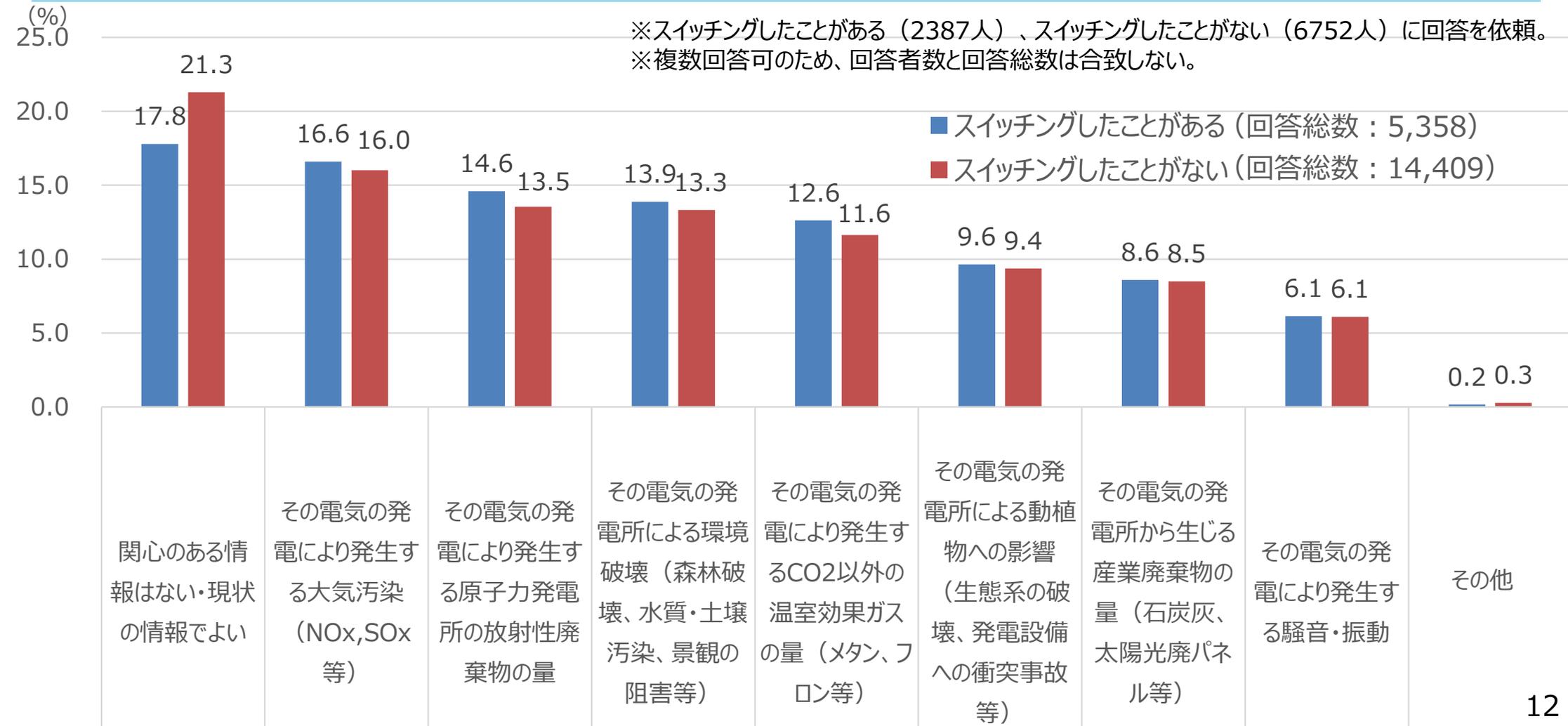
# (参考) 消費者の意識調査での回答状況①-3

- 電気の選択に際して「3番目に」重視している（又は重視したい）ことに限定しても、1・2番目に重視することへの回答同様、家計や暮らしへの結びつきが強い4項目へ回答が集中する傾向。環境負荷を含むその他の項目への回答は、各項目数%となっているが、いずれかの項目が際立って高い結果ではない。



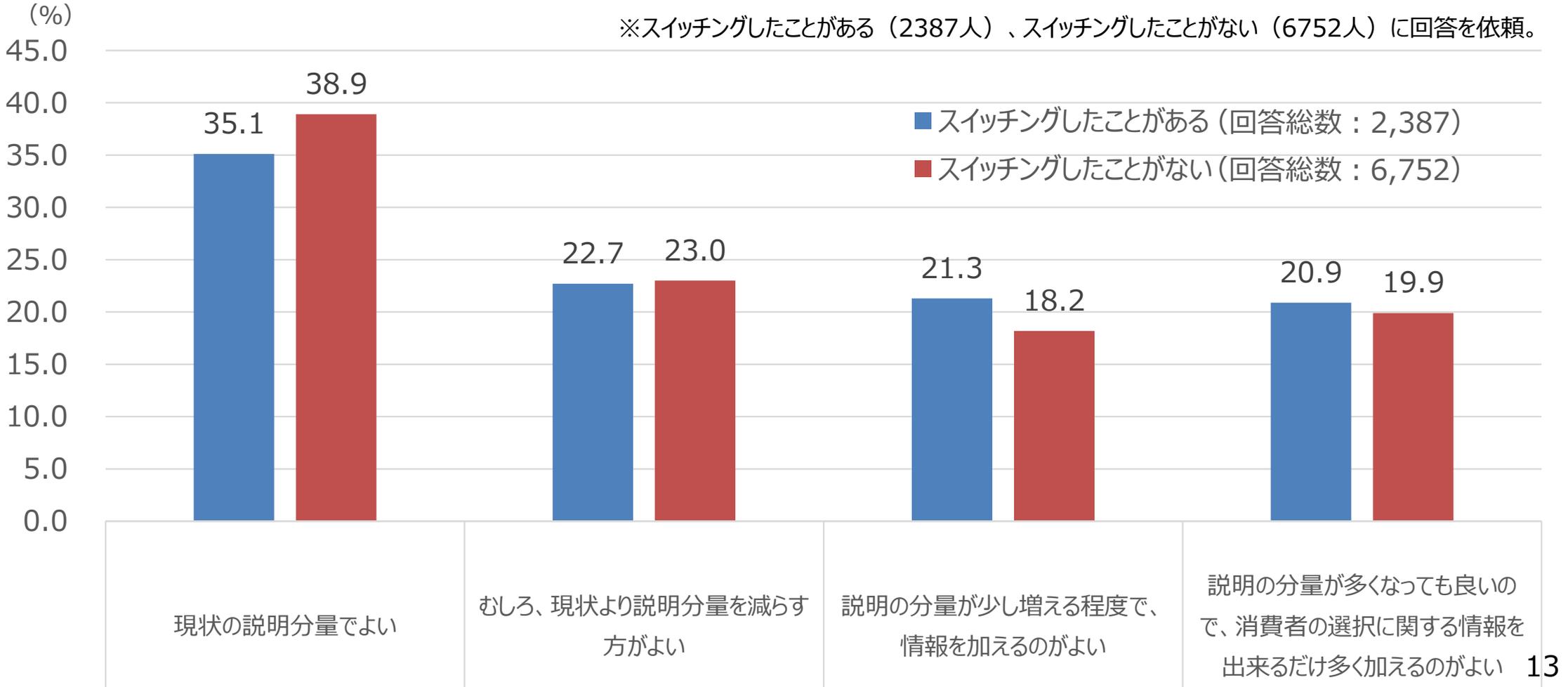
## 消費者の意識調査での回答状況②

- 環境影響のみに選択肢を限定し、「環境への影響に関して、電気を選択するにあたり考慮したい情報」についても調査（複数回答可）。
- 「関心のある情報はない・現状の情報でよい」との回答が最も多いものの、発電に伴う環境汚染への意識も一定程度みられる状況。その中では、放射性廃棄物に対する関心が他の環境関連項目と比べ際立って高いとまではいえない。



# 消費者の意識調査での回答状況③

- 現在、小売電気事業者が（小売GLにおいて）求められている電源構成表示等の説明の分量についても、消費者視点の意見を調査。
- 消費者視点では、現状の説明分量でよいとする回答が最も多く（約4割）、現状よりも説明分量を減らす方がよいとの回答も加えると、更なる情報の追加を好まない割合が過半（60.9%）を占めている状況。 ※環境影響に関心がある層と、ない層に分けた結果は18ページ参照。



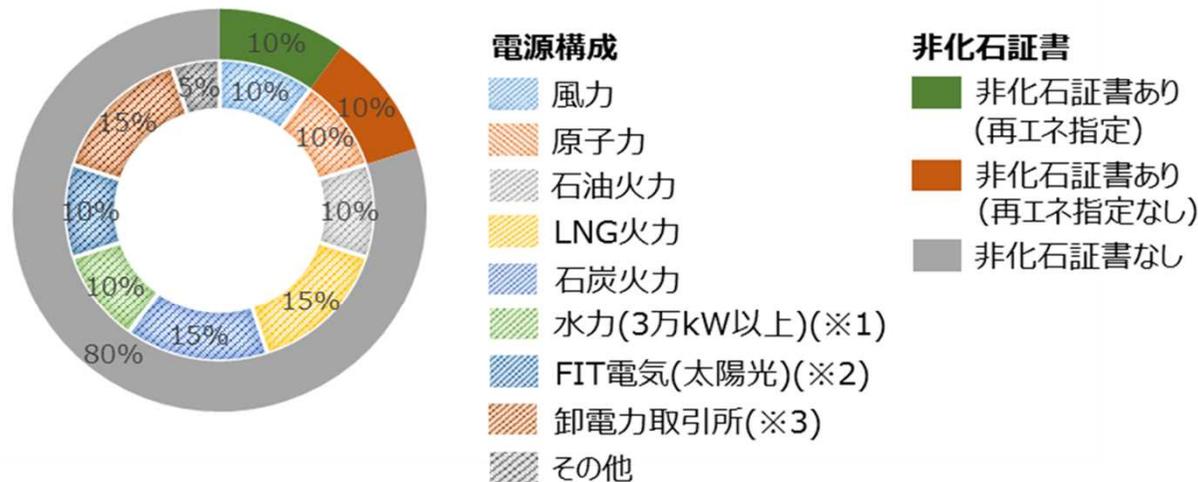
# (参考) 小売電気事業者が求められている電源構成表示等の説明分量の例

※小売GLに準拠して事務局にて作成。

## 当社の電源構成・非化石証書使用状況

令和元年4月1日～令和2年3月31日供給電力分実績値

(内側円：電源構成 外側円：非化石証書)



当社は水力電源を 20%以上とする 20%再エネメニューを一部のお客様に対して販売しており、それ以外のメニューの電源構成及び非化石証書使用状況は上記のとおりです。

- (※1) この電気には非化石証書を使用していないため、再生可能エネルギーとしての価値や CO2 ゼロエミッション電源としての価値は有さず、火力電源などを含めた全国平均の電気の CO2 排出量を持った電気として扱われます。
- (※2) この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われています。  
この電気には非化石証書を使用していないため、再生可能エネルギーとしての価値や CO2 ゼロエミッション電源としての価値は有さず、火力電源などを含めた全国平均の電気の CO2 排出量を持った電気として扱われます。
- (※3) この電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。

(注1) 他社から調達した電気については、以下の方法により電源構成を仕分けています。

- ①○○電力(株)の不特定の発電所から継続的に卸売を受けている電気(常時バックアップ)については、同社の平成30年度の電源構成に基づき仕分けています(今後、令和元年度の電源構成が公表され次第、数値を修正予定です。)
- ②他社から調達している電気の一部で発電所が特定できないものについては、「その他」の取扱いとしています。

(注2) 当社の○年度のCO2排出係数(調整後排出係数)は○○です(単位: ○kg-CO2/kWh)。  
当社は再エネ指定の非化石証書の使用により、実質的に、再生可能エネルギー電気○%の調達を実現しています。

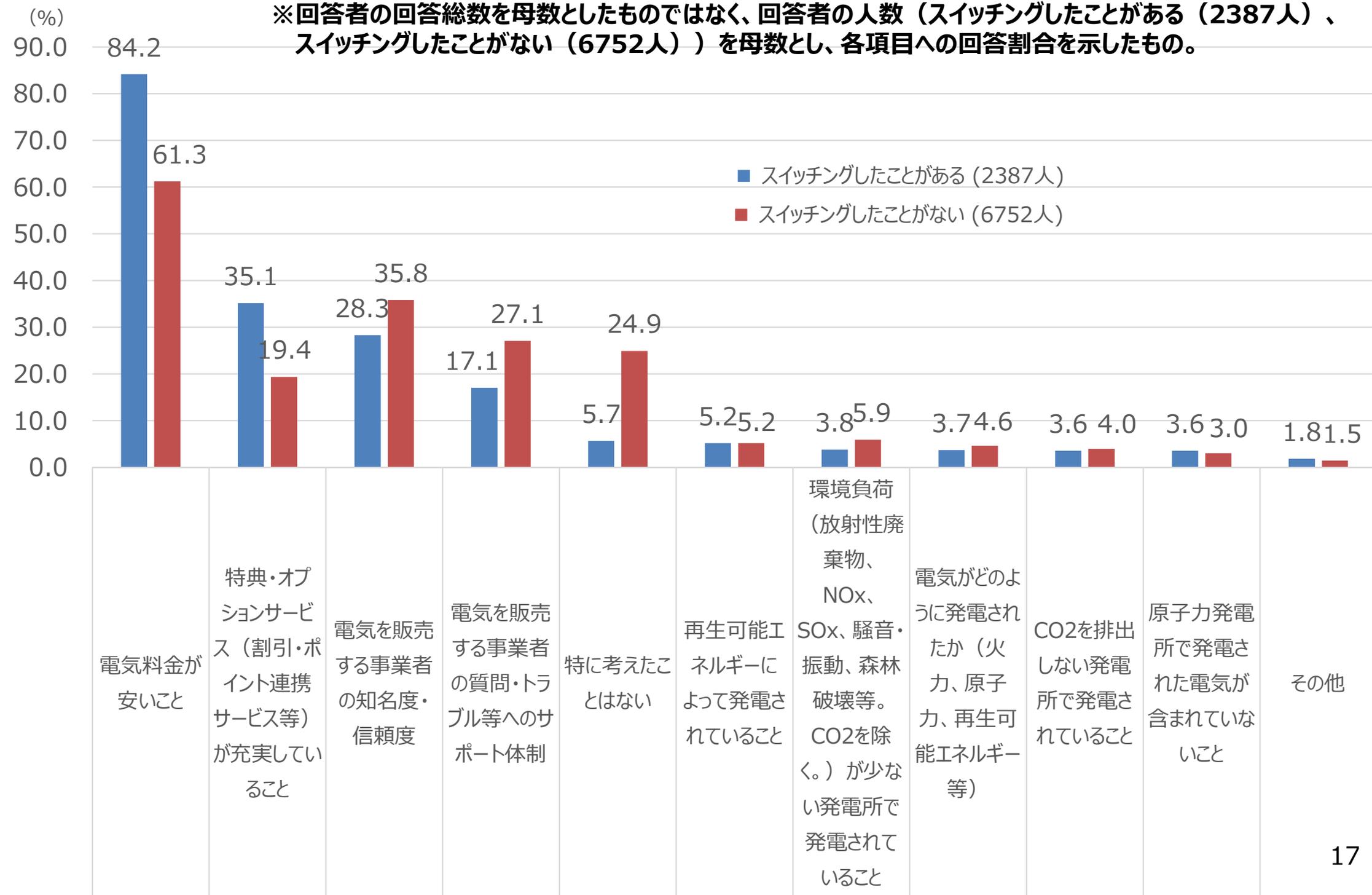
## 検討の方向性

- 調査の結果、消費者が電気を選択するに際しては、家計や暮らしへの結びつきの強い、電気料金の安さや特典（割引・ポイント等）、事業者の知名度・信頼度、サポート体制といった点が重視されており、これに対して環境負荷への関心は現状低い傾向。
- また、小売電気事業者による電源構成表示等の説明分量についても、消費者視点では、更なる情報の追加を好まない割合が過半を占めていた。
- 他方、環境影響に選択肢を限定して調査した場合、「関心のある情報はない・現状の情報でよい」という割合が最も多いものの、発電に伴う環境汚染への意識も一定程度みられる。ただ、放射性廃棄物に対する関心が他の環境関連項目と比べ際立って高いとまではいえない。
- この調査結果を踏まえ、今後の方向性について、ご議論いただきたい。

# その他の調査結果等参考資料

# (参考) 「電気の選択に際して重視している (又は重視したい) こと」の調査結果 (別ver.)

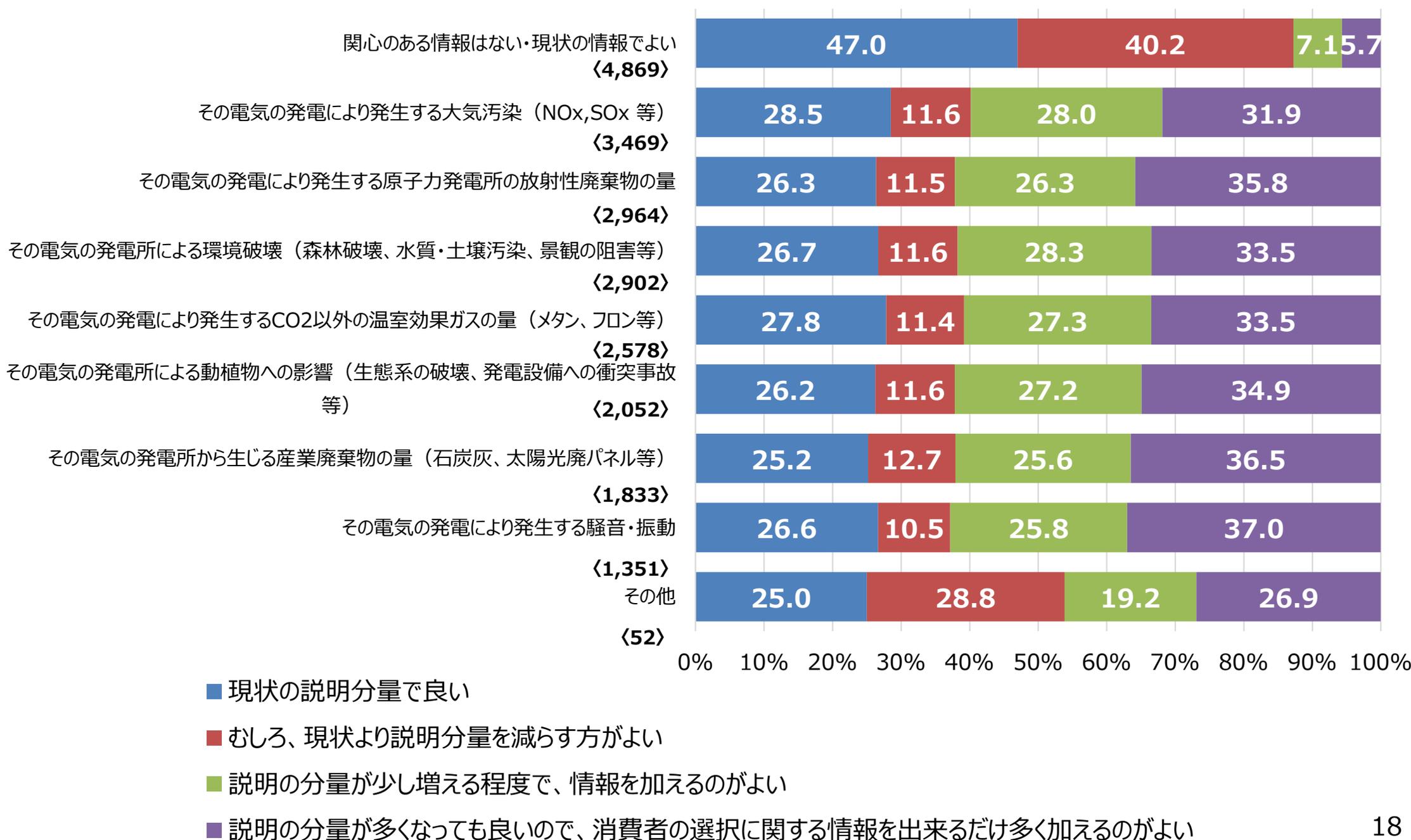
※回答者の回答総数を母数としたものではなく、回答者の人数 (スイッチングしたことがある (2387人)、スイッチングしたことがない (6752人)) を母数とし、各項目への回答割合を示したもの。



# (参考) 「環境への影響に関して、考慮したい情報」を軸とした「電源構成表示等の説明の分量」のクロス集計結果

※〈 〉内の数値は、各項目の回答数合計。

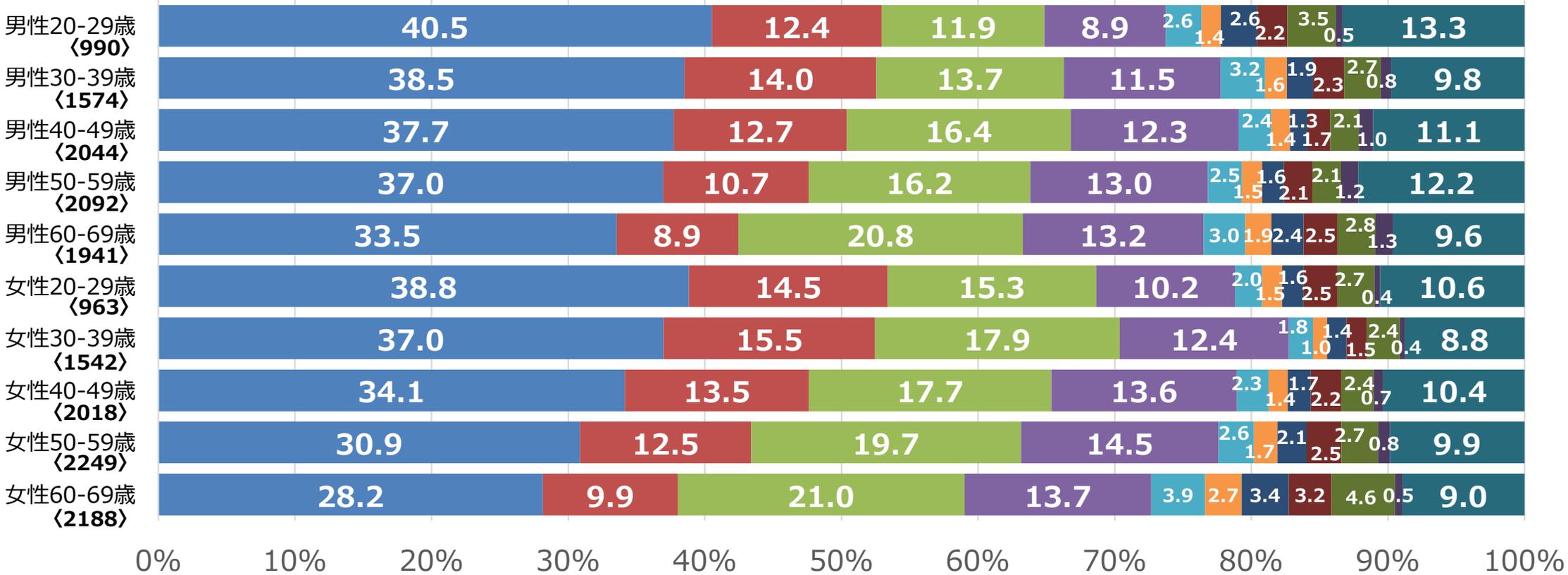
※複数回答可の調査であるため、有効回答数（9,139人）とはズレが生じている。



# (参考) 「性年代別」を軸とした「電気の選択に際して重視している (又は重視したい) こと」のクロス集計結果

※〈 〉内の数値は、各項目の回答数合計。

※複数回答可の調査であるため、有効回答数 (9,139人) とはズレが生じている。

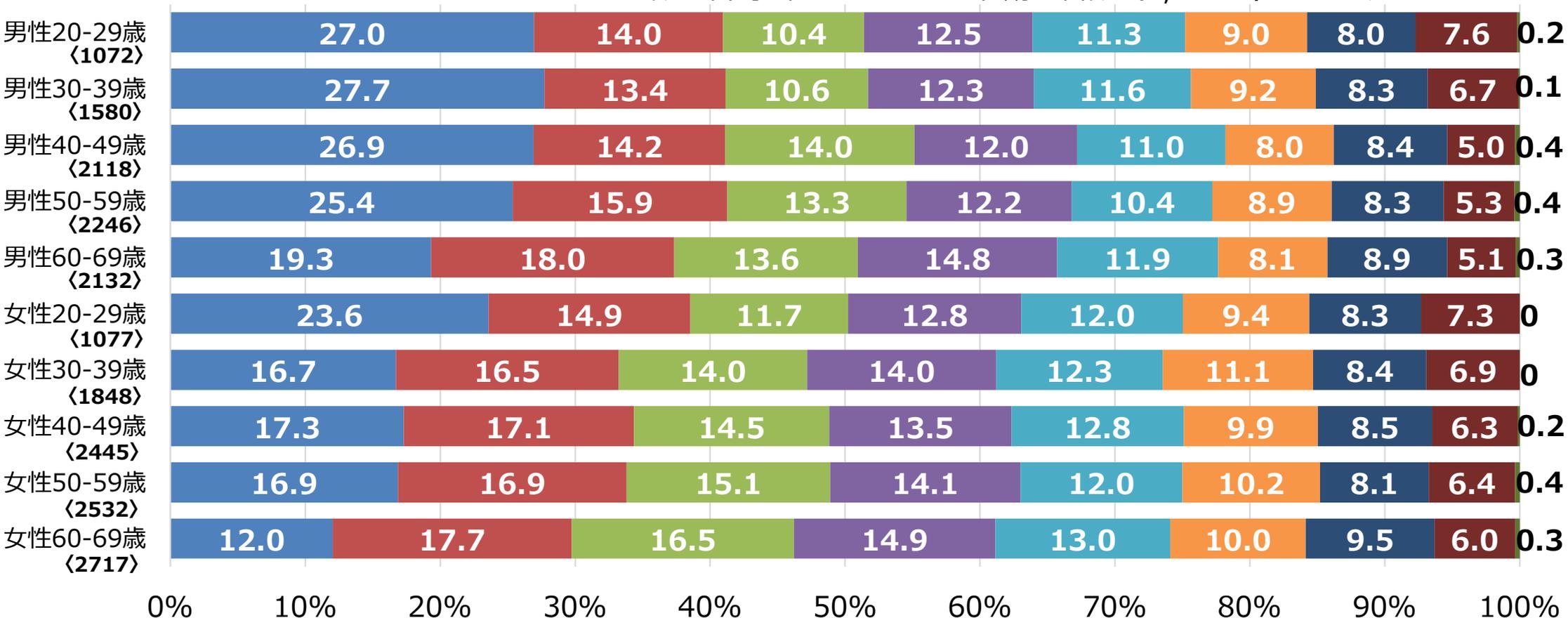


- 電気料金が安いこと
- 特典・オプションサービス (割引・ポイント連携サービス等) が充実していること
- 電気を販売する事業者の知名度・信頼度
- 電気を販売する事業者の質問・トラブル等へのサポート体制
- 再生可能エネルギーによって発電されていること
- 原子力発電所で発電された電気が含まれていないこと
- CO2を排出しない発電所で発電されていること
- 電気がどのように発電されたか (火力、原子力、再生可能エネルギー等)
- 環境負荷 (放射性廃棄物、NOx、SOx、騒音・振動、森林破壊等。CO2を除く。) が少ない発電所で発電されていること
- その他
- 特に考えたことはない

# (参考) 「性年代別」を軸とした「環境への影響に関して、考慮したい情報」のクロス集計結果

※〈 〉内の数値は、各項目の回答数合計。

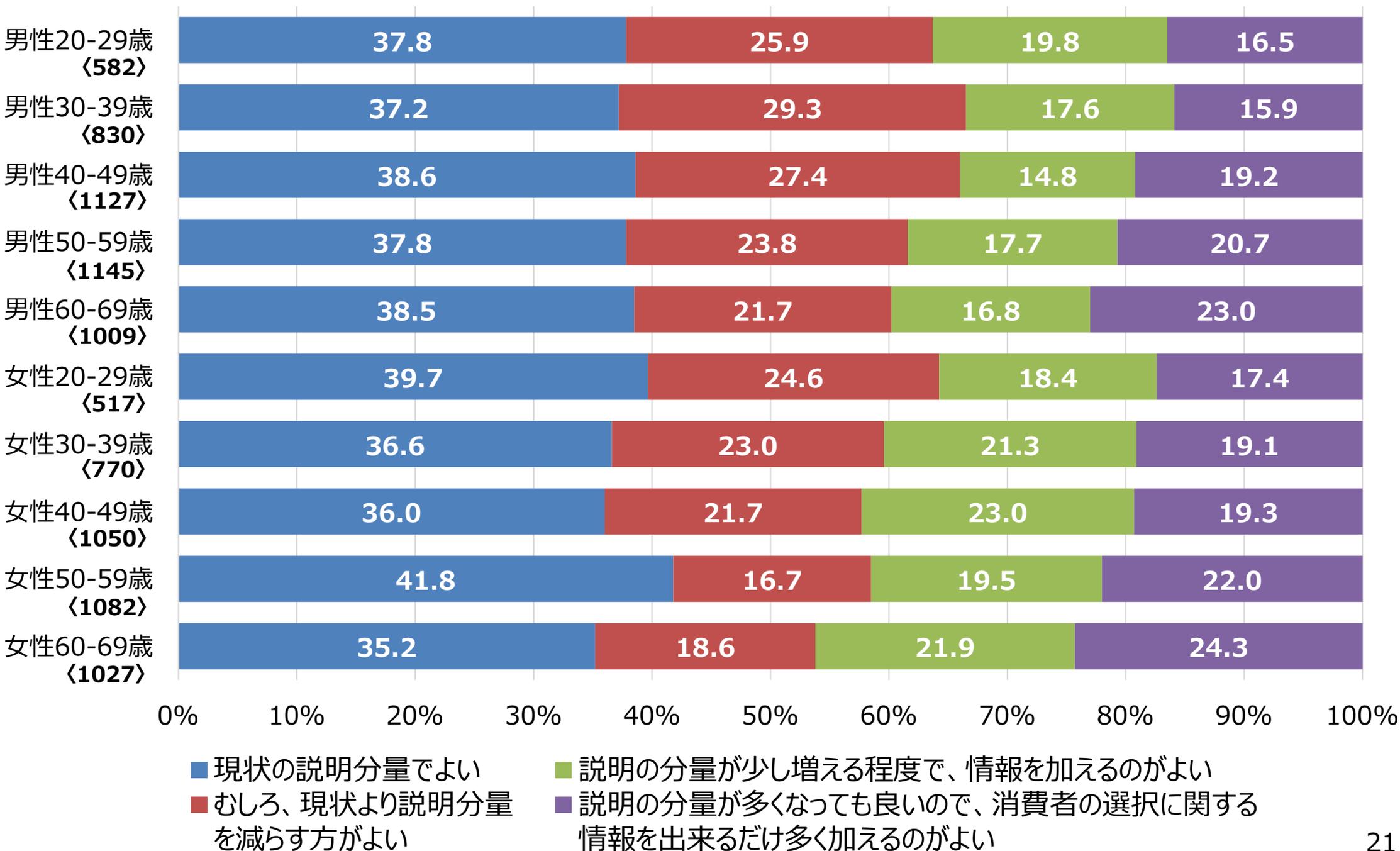
※複数回答可の調査であるため、有効回答数（9,139人）とはズレが生じている。



- 関心のある情報はない・現状の情報でよい
- その電気の発電により発生する大気汚染 (NOx,SOx 等)
- その電気の発電により発生する原子力発電所の放射性廃棄物の量
- その電気の発電所による環境破壊 (森林破壊、水質・土壌汚染、景観の阻害等)
- その電気の発電により発生するCO2以外の温室効果ガスの量 (メタン、フロン等)
- その電気の発電所による動植物への影響 (生態系の破壊、発電設備への衝突事故 等)
- その電気の発電所から生じる産業廃棄物の量 (石炭灰、太陽光廃パネル等)
- その電気の発電により発生する騒音・振動
- その他

# (参考) 「性年代別」を軸とした「電源構成表示等の説明の分量」のクロス集計結果

※〈 〉内の数値は、各項目の回答数合計。



## (参考) 設問一覧①

設問①：これまでに電気の購入先（事業者）を切り替えたことはありますか。

- (1) 切り替えたことがある
- (2) 切り替えたことがない

設問②：平成28年4月より、電力の小売事業が自由化され、これまで電気の販売を行っていなかったガス事業者や通信事業者など多様な事業者が電力の小売事業に参入したことで、消費者は電力会社（電気を販売する事業者）や電力メニューを自由に選べるようになりました。こうした中で、あなたが電気の選択に際して重視している（又は重視したい）ことを以下の選択肢からすべてお答えください。また、特に重視することについて順位をお答えください。（上位3つまで）

- (1) 電気料金が安いこと
- (2) 特典・オプションサービス（割引・ポイント連携サービス等）が充実していること
- (3) 電気を販売する事業者の知名度・信頼度
- (4) 電気を販売する事業者の質問・トラブル等へのサポート体制
- (5) 再生可能エネルギーによって発電されていること
- (6) 原子力発電所で発電された電気が含まれていないこと
- (7) CO2を排出しない発電所で発電されていること
- (8) 電気がどのように発電されたか（火力、原子力、再生可能エネルギー等）
- (9) 環境負荷（放射性廃棄物、NOx、SOx、騒音・振動、森林破壊等。CO2を除く。）が少ない発電所で発電されていること
- (10) 特に考えたことはない
- (11) その他

## (参考) 設問一覧②

設問③：消費者の選択のため、電気を販売する事業者には、電源構成の割合（石油、石炭、ガス、原子力、再生可能エネルギー等）や、その電気を発電する際に排出されるCO<sub>2</sub>の量（CO<sub>2</sub>排出係数）の開示が望ましいとされています（以下、参考図）。これらの情報に加えて、環境への影響に関して、あなたが電気を選択するにあたって考慮したい情報はありますか。（該当する選択肢すべてに回答）

- (1) その電気の発電により発生する原子力発電所の放射性廃棄物の量
- (2) その電気の発電により発生する大気汚染（NO<sub>x</sub>, SO<sub>x</sub> 等）
- (3) その電気の発電により発生する騒音・振動
- (4) その電気の発電所による環境破壊（森林破壊、水質・土壌汚染、景観の阻害等）
- (5) その電気の発電所による動植物への影響（生態系の破壊、発電設備への衝突事故 等）
- (6) その電気の発電により発生するCO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスの量（メタン、フロン等）
- (7) その電気の発電所から生じる産業廃棄物の量（石炭灰、太陽光廃パネル等）
- (8) その他
- (9) 関心のある情報はない・現状の情報でよい

設問④：電気を販売する事業者の説明（ホームページ・パンフレット等）の分量（以下参考図参照）について、どう思いますか。

- (1) 説明の分量が多くなっても良いので、消費者の選択に関する情報を出来るだけ多く加えるのがよい
- (2) 説明の分量が少し増える程度で、情報を加えるのがよい
- (3) 現状の説明分量でよい
- (4) むしろ、現状より説明分量を減らす方がよい

※参考図は、14ページ参照。